

新年度を迎えて～新しい体育の創造に向かって

(公財) 日本学校体育研究連合会理事長 友添 秀則

日頃は、本財団の諸事業にご協力、ご支援を賜り、心よりお礼を申し上げます。

新年度を迎え、本村清人会長のもと、本年度も一層の学校体育の推進に向けて、理事・参加が一丸となって努力をして参りますので、何卒、倍旧のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、11月14日、15日に、東京両国国技館で第52回全国学校体育研究大会東京大会が開催されました。東京大会実行委員会の古家眞大会会長をはじめとする皆様方の大会までの周到なご準備と、見事な運営により、全国から3200名を超える大勢の参加者を得て、大会は無事成功裏に終わりました。大会にご参加くださった皆様方の中には、特別講演でお話し頂きました日本体育協会会長、張富士夫氏の高校時代の剣道を通しての人間形成のお話が、未だ、新鮮な響きをもって心に残っておられるのではないのでしょうか。

さて、今年度の第53回大会は岐阜大会実行委員会の主管のもと、「生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む資質や能力を育てる体育授業」を大会主題に平成26年11月6日、7日に開催されます。折しも、急速にグローバル化する社会に対応するために、これまでおよそ10年ごとに改定されてきました学習指導要領の改定が早まるといわれています。平成28年度には小・中・高校の学習指導要領を全面的に改定し、東京オリンピック・パラリンピック大会が開催される平成32年度に完全実施を目指すスケジュールとのようです。

このような状況の中で、本年度の岐阜大会は、平成23年4月の小学校を皮切りに、その後の中学校、高校で完全実施されてきました、学習指導要領の定着の度合いやその成果が検討されるものと考えております。

ところで、国立教育政策研究所では、思考力を中核として、それを支える基礎力、使い方を方向づける実践力の三層構造から成る、「生きる力」を支える『21世紀型能力』が議論されています。体育科教育ではこの資質・能力の枠組みをどのような形で、具体的な授業や実践に展開していくことが構想されるのでしょうか。

今年の岐阜大会も含めて、今年度の日本学校体育研究連合会の研究・実践の動向は、これからの新しい体育の創造に向けて、ますます重要な意味を持つように思います。

末筆ですが、皆様方の一層のご健勝を念じております。